

# 施策評価シート

評価年度	平成29年度	事業実施年度	平成28年度	施策主管次長名	総務部次長 廣瀬 邦仁
施策番号	62	施策名	地域力を高めて安全で安心して暮らせるまち	総合計画掲載頁	92
関係課名	防災安全課、福祉課、産業課、道路河川課				

## 1. 施策の概要

施策の目的	対象	市民	対象指標名		単位	H27実績	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
			①	人口	人	60,365	60,860	61,154	61,449	62,000
			②							
			③							
意図	安心して暮らせるまちにする			成果指標名	①	犯罪発生件数				
				②	交通人身事故件数					
				③	火災発生件数					
				④	防災訓練などの参加者数					

## 2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
①	犯罪発生件数	件	644	630	572	560	550	788
	指標設定の考え方と把握方法	数値が低いほど安全で安心して過ごすことができる。警察から提供						
指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
②	交通人身事故件数	件	267	260	286	260	255	282
	指標設定の考え方と把握方法	数値が低いほど安全で安心して過ごすことができる。警察から提供						
指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
③	火災発生件数	件	16	15	21	15	14	26
	指標設定の考え方と把握方法	数値が低いほど安全で安心して過ごすことができる。消防から提供						
指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
④	防災訓練などの参加者数	人	10,939	11,000	10,543	11,000	11,500	12,400
	指標設定の考え方と把握方法	数値が高いほど安全で安心して過ごすことができる。						

## 3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	自分の身は自分で守るという考え方に立ち、家族ぐるみで防犯対策、防火防災対策や交通マナーの向上に努める。			
	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪、交通死亡事故情報を提供し、防犯、交通安全活動の支援を行う。</li> <li>・消防防災設備等の充実及び地域の防災力を高めるため自主防災組織への支援を行う。</li> </ul>			
達成度評価	近隣との比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西三河9市及び豊明市、日進市との比較では、犯罪発生件数は日進市と碧南市を除き前年より減少しており、本市は72件の減である。</li> <li>・交通人身事故件数は、豊田署管内の豊田市とみよし市を除き減少している。</li> <li>・火災発生件数は、岡崎市、碧南市、高浜市、日進市が増加しており、本市は4件増加している。</li> <li>・防災訓練などの参加者数は、公表された数値がなく、また市町による算出方法が異なるため比較が困難である</li> </ul>			
	過去3年間の実績との比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪発生件数は、26年は12%減少、27年は11%減少、28年は11%減少と減少傾向にある。</li> <li>・交通人身事故件数は、26年は前年と同数、27年は9%減少、28年は7%増加している。</li> <li>・火災発生件数は、26年は7件減少、27年は8件減少、28年は4件増加した。</li> <li>・防災訓練などの参加者数は、26年度は842人減少、27年度は726人増加、28年度は396人減少した。</li> </ul>			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆防犯では、自主防犯パトロール隊活動や深夜防犯パトロール事業、また各行政区等における防犯カメラの設置の効果も含め、犯罪件数は減少傾向にあるが、今後も自主防犯パトロール隊への支援、防犯カメラの設置支援等を引き続き行う必要がある。</li> <li>◆28年は人身事故発生件数が増加してしまった。交通安全教室、立哨活動、店頭広報などを引き続き実施していく。防火では、消防団の巡回啓発、女性消防団の世帯訪問事業など、今後も啓発を中心に事業展開していく必要がある。</li> <li>◆防災では、被害を最小限にとどめ災害の拡大を防止するには、平素から住民等による自主防災組織を設けて、出火防止・初期消火・被災者の救出救護・避難所運営等を組織的に行うことが重要であるため、自主防災組織の育成を今後も進めたい。</li> </ul>				
今後の取組の方向性及び次年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆防犯、交通安全、防火防災全てにおいて「自分の身は自分で守る」意識を持つことが必要であり、今後も引き続き啓発活動を行うとともに、防犯では自主防犯パトロール隊の支援、防犯カメラ普及への支援、防犯診断事業の実施、交通安全では各種の安全教室や啓発活動及び交通安全施設の整備、歩行者保護モデルカー活動を実施し成果の向上を目指していく。</li> <li>◆防火防災については、女性消防団による一般家庭への防火訪問を通じて自己防衛意識の高揚を図っていく。</li> <li>◆避難行動要支援者名簿の整備を行い、市民の安全確保に努める。</li> <li>◆市役所における災害発生後の業務立上げ時間の短縮や発災直後の業務レベルの向上を図るため、27、28年度に策定した業務継続計画（BCP）の運用訓練を実施していくとともに、引き続き防災ラジオの普及を図っていく。</li> <li>◆名古屋大学へ職員を派遣し、「自主防災組織の効率的な組織化」「効果的な防災教育の具体的手法」等の研究を行い、自主防災組織の育成を進めていく。</li> </ul>				
市民意識	重要度	高い	満足度	高い	平成28年度市民アンケート調査による